

ペレット・チップ・薪等の活用事例見学会

NPO 八ヶ岳森林文化の会

開催：平成 25 年 7 月 7 日 7:00~17:00

1. サクラファーム（チップボイラー）

概要：シメジ農家の培地殺菌の為に蒸気に、使用済み培地を燃料として活用し灯油ボイラー燃料を削減すると同時に、培地処理費用を削減する

- ・ 廃菌床炊きボイラー（2000 万円、小片鉄鋼（新潟））
- ・ H20 年補助金適応
- ・ 年間削減費用 200 万円
- ・ 工程：廃菌（含水 70%）→ボイラ熱風乾燥→ボイラ供給（燃料）→蒸気発生→菌床殺菌（8H）
- ・ 提案：廃菌床乾燥時の排気蒸気から排熱回収、予備蒸気ボイラーの排熱回収省エネ
- ・ おひさま進歩のサポート

感想：シメジ農家が補助金を活用し、大きな投資で大きな省エネ・費用削減を実現している姿に襲撃と同時に、おひさま進歩が素晴らしいサポートをしている姿を見ることができた。ニーズと技術・仕組みをつなぐ活動が大切であることを実感した。

2. ほっ湯アップル

概要：中温（39.6℃、620L/min、PH10.13）温泉加熱（1~2℃）及び洗い湯加熱の灯油ボイラーの代わりに行政の指導でチップボイラー（スイス製 SCHMID Pyrotronic、巴商会）適応

ボイラー：チップ自動供給（ストックタンク：10t）、加熱温度設定 80℃、燃焼温度設定 600℃
チップ価格：36円/kg

感想：システムとしては温泉熱ヒートポンプの方が効率がいいと思われる

3. 三宜亭

概要：中温（38℃、70~80L/min、PH9.87）温泉加温に、廃材薪ボイラー+灯油ボイラーアシスト、排熱活用にヒートポンプ、井戸（14℃、PH7.1）にヒートポンプ適応で冷房。

排熱ヒートポンプに金 2/3 適応、冷房ヒートポンプに補助金 1/3 適応

感想：表面的に話を聞く限りでは良く情報を得て、ローテクからハイテクまで有効に技術を選択している行動力は素晴らしい。システムの考えられたものである一方で、薪の最終燃焼条件については灰がほとんど炭であることなどを見るとまだ効率を上げる余地はある。

- ・ 井戸水へのヒートポンプ適応でおひさま進歩のサポート

4. 風の学舎（NPO 法人山法師）

概要：自然エネルギー愛好家による自家建築、化石燃料ゼロハウスで一般・学生などの見学を受け入れている。方式は、太陽光発電、薪ストーブ・レンジ、土釜戸、手作りピザ窯、囲炉裏（炭）、太陽熱温水器+薪燃焼、雨水浄化設備によるトイレ給水、太陽熱パネル（ソーラーウォール）等、の手作り（接続）ハウス

- ・ おひさま進歩のサポート

感想：愛好家が夢を語るたまり場として最適

5. 飯伊木材流通センター「ほうりん」

概要：H23 設立飯伊森林組合、飯伊木材協同組合有志 3 社の共同による、製材事業所。

- ・ 飯伊森林組合、プレカット事業者により昭和 62 年より木材のプレカットを中心に事業を開始し

たが、南信材の活用に伴い、中京地区での製材が増加したことにより、製材所を H 2 3 に設立したもの

- ・南信州木づかいネットワーク（素材、製材、建築、工務店、設計、行政のネットワーク）
- 森林価値と環境価値を付加した家づくり、木造文化のステイタス化。

感想：説明の中で、山林所有者の世代が交代する中で山林に対する関わりと興味が薄れ、経済価値のみを追求する一方、山林組合への委託も無い中で、山林所有者の参画は少ない。また、補助がある現在需要より木材の供給が多い状態であるが、補助が終了した以降の見通しが無い。等を聞く中で、県内の地場材木の活用の必要性を感じた。

6. DLD（薪宅配システム）

概要：カラマツ、赤松を主体とした、県内・山梨にかけての薪供給拠点。

感想：薪ストーブの一般への普及がかなり進んできていることを感じた。

7. 八ヶ岳森林文化の会

概要：茅野市が借用の吉田山を市民森とし、ここでの森整備、間伐、間伐材の活用、自然観察会等の開催を活動としている。特に間伐は年に何回か実施し、間伐材の売却・参加者への薪配布などの活動実施。H 1 4 年に設立し、吉田山での活動推進。H22 年 NPO 法人化。

感想：茅野で市民によるここまでの森林活動の進展に大変驚いた。森の整備、間伐、自然観察による山との交流など、富士見自然 e ライフ会議で当面の目標としたい活動がすでに実現しており、更に事業化を目指していることに驚きを感じた。活動は、間伐材を販売する事業についての情報を求めて今回の見学会となっている。

8. 全体を通じて

今回南信地区で省エネを考慮しながら自然エネルギーを積極的に活用している現場を見る中で、それを支える仕組みがあることを感じた。

一つ目の仕組みとして、おひさま進歩による技術と仕組みのサポートが有効に働いていることを見ることができた。さくらファーム、三宜亭、風の学舎において、自らの行動力に敬服すると同時に、支える活動としておひさま進歩のサポート活動が大変有効に機能している。技術の面そして補助金など行政の仕組みは一般には情報が届いていないのが実態と思われる中で、おひさま進歩のような両者を繋げるサポートが重要と感じた。

次に、木質バイオマスを支える薪やペレットを供給する仕組みである。諏訪地区でも最近では薪こそ供給する事業が出始めているが、既存住宅へのペレットストーブ普及にはペレットの供給がまだ未成熟と思われる。薪については DLD が県内から山梨に至るまで宅配供給していると言う事は薪ストーブの普及がかなり進んできたことを表わす。薪・ペレットについてはまさに今後の行動が問われていると感じた。

今回、私が最も感動したのは、見学会を主催した“八ヶ岳森林文化の会”の活動内容である。会にとって今回の見学の一つの目的が間伐材の販売事業の調査あることが分かった。配布されたガイドブックを見て、10年前からの活動の継続のなかで会では市民参画の山林整備、間伐共同活動をすでに実行されていることが分かった。自然エネルギーの中で一般市民に最も身近で効果的な分野が木質バイオマスであることは明らかである。一方、市民にとって自然エネルギー活動とは自然エネルギーを通じて自然との関わりを取り戻すという事である。これらの活動がその活動を支えるためにも資金を生み出すまでに成長させることが一つの到達点であると思う。この意味で、ある到達点まで達している“八ヶ岳森林文化の会”の今後の益々の発展を祈念すると同時に、ご指導をいただきたいと思う次第である。